

はじめに

特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ

代表理事 小林 純子

東日本大震災

2011年3月11日14時46分18秒（日本時間）宮城県牡鹿半島の東南東130 km、仙台市の東方70キロの太平洋の海底を震源とする地震が起きた。

地震の規模はモーメントマグニチュード（Mw）9.0で、日本周辺における観測史上最大の地震である。



その時、私は所用があつて訪ねたビルを出たところだった。地面が大きく揺らぎ始め、目の前では、電気工事をしているクレーン車が跳び跳ねるように動いている。電柱が大きく揺れ、電線が波打っている。立っていることもできない揺れにしゃがみこんで体を支えているのがやっとだった。少し揺れが収まったすきを見て、近くの空き地に移動した。多くの人が建物から飛び出して、不安そうに空を見上げている。まるで目にみえない巨人がビルや車をゆすっているようだった。揺れは何度も繰り返し、この世の終わりかと思われた。「何か、とんでもないことが起こっている」とは思ったが、その後の悲惨な光景を想像することはまだできなかった。

地震発生後、ライフラインすべてがストップし、余震でバウンドする車に揺られながら見たカーテレビでは、電波の状況が悪く画像を見ることはできなかったが、「仙台空港に水が……」というアナウンサーの声が聞きとれた。スプリンクラーでも故障したのだろうかと思いつつ、家に入ろうと思うとまた大きな余震があるという具合だったの

で、夕方まで車内で過ごした。夜には何とか家に入ることができたが、食器がなだれ落ちて足の踏み場がなかったり、家具が50～60センチも動いたりしており、居場所を確保するのが大変だった。ラジオでは、若林区で、多くの人が亡くなって遺体が散乱している様子が報じられていた。

私たちは、停電のため数日間テレビ報道を見ることができなかつた。人々は何が起こっているのか十分把握できないまま、避難所へ殺到した。備蓄されていた毛布も食料もあつという間に底をついた。殺到する住民で避難所はごつたがえし、遅れて到着した幼稚園児、保育園児などは中に入ることができず、雪が舞う校庭でブルーシートをかぶっていたという事態もあちこちで起きた。その晩は、1枚のビスケットを数人で分け合つて過ごしたという避難所も多かったが、その後が届く津波被害にあつた地域の情報などを聞けば、そんなことは苦勞のうちではなくなつていった。

私は、宮城県を中心に20年以上にわたつて、子ども・子育てで支援の活動を行つてきた。いくつかのNPO団体の代表を務め、その間、仙台市指定管理第1号の「子育てふれあいプラザのびすく仙台」の運営や、児童館の指定管理などを行うかたわら、宮城県にチャイルドラインを設立し、2002年から電話受付を行つてきた。

これらの活動の理念の根底に、1994年に国連で採択された「子どもの権利条約」があつた。活動の中で、私たちは「子どもの権利」についての普及啓発を行つてきたが、日本の子どもの状況はよくなるどころか、3日に1人が虐待で死亡、3日に2人の子どもが自殺をする、不登校は約14万人にものほり、いじめが増加、子どもの貧困が問題となるという具合に、目を覆うばかりの状況になっている。

それに追い打ちをかけるように起きた東日本大震災が、今後日本の子どもたちにどのような影響を与えることになるのか、それにどう対処していくのか、私たちはあらゆる

知識と経験と想像力をもって、答えを求めていかなければならない。

「大きな災害は、それまでにあった問題をあぶりだす。」
私たちが震災から学んだことは、「大きな災害が起きたとき一番被害を受けるのは弱い立場の人々—子ども・女性・高齢者・障害者など—であった」ということ、そして、「災害が起きたときにリスクを少しでも軽減するためには、日ごろからの備えが重要である」ということだった。

「未曾有ともいわれる災害に見舞われた私たちの経験をできるだけ書き残し、各地域で、またひとりひとりが、それぞれに再び起きるかもしれない災害に対し備えてほしい」、本書はそのような意図で書かれたものである。本書をより多くの人に読んでいただき、未来に備えることが、東日本大震災で失われた 15,000 を超える尊い命に報いることだと考えている。

本書をまとめるに当たり、私たちのために話をしてくださった被災者、支援者、行政の方、その他多くの方たちに感謝したい。

また、震災後、支援や励ましをいただいた皆様に対しては、混乱の中、感謝の気持ちを伝えきれないことも多かった。ここに改めて御報告を申し上げますと共に、深く感謝申し上げます。

東日本大震災から 3 年目を迎える日に

2014 年 3 月 11 日

こばやし じゅんこ
小林 純子 特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ代表理事

子育て中に「子ども劇場」の活動に参加。1995 年仙台市で「エンゼルプランを考える会」を結成。1998 年 10 人の女性で「MIYAGI 子どもネットワーク」を設立。チャイルドラインの設立、「仙台市子育てふれあいプラザのびすく仙台」や児童館の指定管理等、子ども・子育て支援に携ってきた。